

ぶぎか 議会だより

第127号 2023.7.22



注目!

6人が登壇!!

新人4人含む

一般質問 8

(画像の一部を加工しています)

定例6月会議



改選後初の一般質問には多数の傍聴者が

一般質問は6人

令和5年6月会議は6月19日から21日までの3日間実施され、改選後初となる一般質問の機会に、新人4人を含む計6人が一般質問で町長や教育長の考えを質しました。

質問者が多数となったため、19日の夜間議会と20日の2日間にわたって質問が行われ、19日の夜間議会には大勢の町民の方々が傍聴に訪れ、町民の方々の議会への関心度の高さと、新しい議会への期待感の高さを感じました。

質問内容は、「航路運賃」「ジエンダー」「高校存続」「教育の充実」「通学路の安全」「町長が描くビジョン」「野良猫の苦情対策」「小値賀牛・小値賀メロンのブランド化」「定置網問題」「農業災害対策」と、多岐にわたりました。

※詳細は6ページ以降をご覧ください。

議案一件が委員会負託に

条例の一部改正が3件、一般会計補正予算のほか、役場職員が使用するパソコン14台の更新など19件が提出され、そのうち一件は委員会付託となりました。

また14名の農業委員会委員の任命には、全員が同意しています。新体制は7月20日からスタートします。



一時休会！「子育て支援関連条例の改正案」疑義が多発

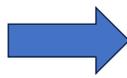
出産前の本土での宿泊費
 支援額を6千円から8千円に
 ・ ・ ・ 8千円で十分か？

小値賀町安心出産支援補助金支給条例の一部を改正する条例（案）の審議では、事前に本土で出産を待つ際の宿泊費の支給額を6000円から8000円に引き上げる等の改正案が出されました。
 しかし、昨今の物価高の影響で宿泊費も値上がりしており、8千円で十分なのか疑義が多発。本議案の取り扱いを全員協議会で討議するため一時休会に。
 議員のみ別室に移動して話し合いを行い、その結果、総務文教厚生常任委員会に付託することに決定しました。
 会議終了後の6月30日に同委員会が開かれ、県内他町を参考とした数字を根拠に、宿泊費の支給額を**1万円**とする修正案を、委員会から議会に提出することに決定しました。

改正後	改正前
<p>(補助対象費用)</p> <p>第3条 補助対象となる費用は、次に掲げる費用とする。</p> <p>(1) 出産に備え事前に本土で待つ際の宿泊費。ただし、宿泊費は1泊 8,000 円を限度とし、食費は除く。</p> <p>(2) 前号、<u>出産直後帰町する際及び定期受診する際の船賃</u>。</p> <p>(3)・(4) (略)</p> <p>(補助金額)</p> <p>第3条の2 補助金の額は、<u>前条第1号から第4号に掲げる費用の実費相当額の合計額</u>とする。その際に100円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てた額とする。</p>	<p>(補助対象費用)</p> <p>第3条 補助対象となる費用は、次に掲げる費用とする。</p> <p>(1) 出産に備え事前に本土で待つ際の宿泊費。ただし、宿泊費は1泊 6,000 円を限度とし、食費は除く。</p> <p>(2) 前号及び定期受診する際の船賃。</p> <p>(3)・(4) (略)</p> <p>(補助金額)</p> <p>第3条の2 補助金の額は、<u>次に定める額の合計額</u>とする。その額に100円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てた額とする。</p> <p>(1) 前条第1号及び第3号に掲げる費用に4分の3を乗じて得た額</p> <p>(2) 前条第2号に掲げる費用においては、要した費用の実費相当額</p> <p>(3) 前条第4号に掲げる費用においては、交通費は実費相当額、宿泊費は4分の3を乗じて得た額</p>

執行部提案

- ・ 宿泊費上限を実質 4500 円 → **8000 円** に
- ・ 産後、帰町する際の船賃も新たに補助対象に



委員会修正案

- ・ 宿泊費の上限を **10000 円** に
- ・ 同左

※②議決事件

議会の行う議決（議会の意思決定）の対象となる事項や事柄のことで、その態様は対象となる事項や事柄によりいろいろな形態がある。

※①委員会付託

議会の議決を要する事件について、議会の議決に先立って詳しく検討を加えるために、それぞれ担当の委員会に審査や調査を委託すること。



一般会計補正予算



主なやりとり

問 担い手公社事務所トイレ増設工事費60万円の内容は。

答 担い手公社事務所のトイレは男女共用で利用しているため、一部を改修して女性用トイレを増設する予定で、当該事務所は町の所有物だ。

問 生活保護システム改修業務委託料250万円とあるが、本年度予定している役場業務のDXとの関連は。

答 直接DXには関係ない。生活保護関連の追加調査項目と、生活保護の基準額の変更に伴うシステム改修に要する費用となっている。

問 この業務単体ではなく、行政業務全体として効率化されるようにDXに取り組んでほしい。

答 今後、もっと事務負担のかけられない安価なシステムが構築できれば、導入を検討していきたい。

※ DX (ディーエックス)

デジタルトランスフォーメーション。自治体がDX推進によって生産性の向上や業務の効率化をはかり、住民に対する行政サービスの維持と向上を目指す取り組みのこと。昨今叫ばれているDX推進は、自治体でも急務とされています。

問 ゴミ焼却場低圧化工事費の内容は。

答 焼却場は廃炉となるが、リサイクルセンターと事務所は残るため、電圧を高圧から低圧に切り替える工事。

問 段ボール等の圧縮梱包に使用する機械が今年度予算で計上されているが、これは空き缶の圧縮梱包に使用できないか。もし可能なら電気代の節約となるのでは。

答 使用できない。ただ、焼却炉の電気代はピーク時で月40万円ほどだったのが、廃炉にした3月で月17万円となり、さらに低圧化すると基本料金3万6千円+使用料となるため、大幅な電気代の削減が期待される。

問 低圧化工事費200万円に加え、電力会社低圧化工事負担金100万円はなぜ必要なのか。

答 町が行う低圧化工事費とは別に、電力会社が行うトランス(変圧器)と配線の取り換え工事が必要となるため、その工事の負担金として計上している。

問 町道前浜線道路改良工事の、土地購入費と保証金の内容は。

答 前浜公園前の大きなアコウの木が路面にはみ出しており、歩行者が転倒して危険ということで改善の要望が地区から上がった。当該箇所を一部拡幅する予定だがその中に個人のブロック塀と土地があるため、その土地購入費とブロック塀の補償金として計上している。



前浜公園前のアコウの木

令和5年度一般会計補正予算

8419万円増額 → 39億8519万円に

今回の補正予算は、町道・空港トンネル工事費や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が主なものです。

また、ごみ焼却場低圧化工事費200万円、斑漁港木製棧橋の更新事業費200万円、地域おこし協力隊(ふるさと留学)事業委託費として200万、昨年被災した大浦地区のため池等の農業施設災害復旧事業費として150万円などが計上されています。

いま！おぢかで
つかうけん
25,495千円

低所得世帯
支援給付金
18,000千円

町道・空港
トンネル工事費
11,800千円

新型コロナワクチン
接種関係手数料
5,623千円

子育て世帯
生活支援特別給付金
3,000千円

生活保護システム
改修業務委託料
2,506千円

(金額の大きい事業 上位6選)

条例の一部改正

■ 会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例(案)

質疑の後、江川副議長が反対討論、今田議員が賛成討論をそれぞれ行い、起立により賛否の意思を表明し、賛成多数で可決となりました。

給料表	職務の級	基準となる職務
行政職(1)	1級	定型的又は補助的な業務を行う職務
	2級	相当の知識又は経験を必要とする職務
	3級	高度の知識又は経験を必要とする事務
	4級	特に高度の知識又は経験に基づき困難な業務を行う事務
行政職(2)	1級	定型的又は補助的な業務を行う職務
	2級	相当の知識又は経験を必要とする職務
	3級	高度の知識又は経験を必要とする事務

←改正により追加

←改正により追加

←改正により追加

本制度の運用開始から3年が経過したが人手不足等により任用職員が行う業務は多岐にわたったり、高度な知識を必要とする事務を任せる必要が出てきた。

このため職責の見直しが必要となり、職員の給与に関する条例に準拠し、給与表を改正する。

この改正は町長の個人的な配慮が目的か。定年退職者が再雇用されることは、人手不足を改善するためには良いことだが、早期退職者を再雇用するために報酬の改正をするのは疑問。また、正職員を早期退職し、会計年度職員としてすぐ同じ職場に入り直すなどの問題行動にも繋がってしまう。

高度な知識を持った方を採用し、その職責を果たしていただき、組織を成り立たせるためには、それ相応の給与額を与えることが必要と考えている。賛否両論あるかと思うが、ご理解いただきたい。



今田議員

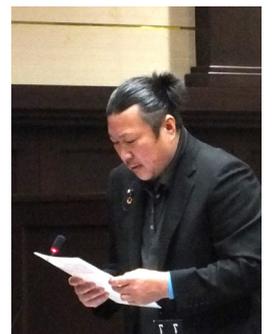
職責を担うために相応の給与を出すことは必要。江川議員の意見も理解できるし、町民の厳しい声もある。だが、実際に高度な知識が必要となる業務を任せ、職責を全うしていただくと思ったら、相応の給与はやはり出さなければいけないと思うので、賛成する。

賛成6

反対1

可決となりました

会計年度任用職員という名のもとで、報酬の良い天下り先が、役場関係各所に今後いくらかでも増やすことが可能になる。人手不足という言葉の後ろで、特別扱いのための隠れ蓑を作ることのないようにという思いと、一般町民が聞いて呆れる顔が目につかぶので、反対する。



江川副議長

佐世保～小値賀間の運賃について

Q
A

佐世保～小値賀間の船賃について町長の考えを伺う！

国・県だけでなく、町単独での補助も検討したい



江川 春朝 議員

フェリーの佐世保行き片道の運賃、割引開始前は2640円、開始直後1660円、現在は2590円である。佐世保～小値賀間をJR運賃に照らし合わせ距離換算するとなんと1200円。

運賃低廉化事業における成果は

○ 航路運賃低廉化事業における成果はあるか。

○ 低廉化により、通院費負担軽減など大きな成果はあるが、燃油サーチャージ値上げが原因で、JR並みとは言えない。

状況に応じた手厚い支援を

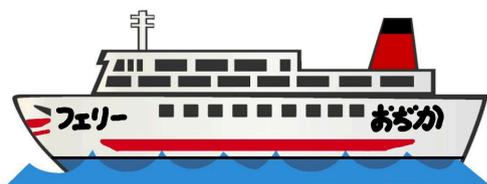
○ 燃料高止まりや上昇があれば、これまでのどおりの支援で十分と考えるか。

○ 五島市、新上五島町と足並みをそろえ、今後JR運賃並みとなるよう、国、県に働きかけていく。

○ 低廉化されていることは、事実だが、町民が高いと言っていることも事実。利用者が高いと思う以上、低廉化の意味をなしていない。

国境離島住民利用航路を、JR運賃並みへ低廉化を目的に、運賃割引が始まったが、6年が経過した今、JR運賃並みとは程遠い。燃油サーチャージ上乗せは承知だが、国境離島とは、領土領海を守る重要な島であり、島に人が住み続けることは国を守ることにそのものである。町民は、怪我や病気、特別な理由で船を利用するが、その度に離島のハンディキャップを痛感するのが、高い運賃である。

なお、島民限定の割引のため、帰省や旅行客は、高速船、佐世保～小値賀間、片道6500円、5人家族で往復すると、65000円となる。今は旅行支援クーポンや割引があるが、それも終わる。この金額では、帰省や観光、経済にも影響する。この低廉化事業は、分け隔てなく、多くの町民に予算が届く、そして、離島のハンディキャップを解消できる政策であるはずだ。





世界共通目標 SDGs 第5の目標である 男女格差、ジェンダーギャップについて



Q
A

男女格差、ジェンダーギャップについて町長の考えを伺う！

今後は男女関係なく実力で登用する

ジェンダーギャップとは、男女間格差のことである。男尊女卑の風潮が根強い本町では簡単な問題ではないが、そもそも男女格差は人権問題であり、想像以上に重要である。

SDGs第5の目標に対して、どのような取り組みを行っているか

町SDGs第五の目標の、本町の取り組みを伺いたい。

答 一名が推進員として、普及啓発活動や研修会に参加している。昨年は講師を招き、職員向けの研修会を開催した。

小値賀町は独自の目標を掲げているか

町本町は現在、目標を掲げているか。

答 男女共同参画計画を策定し、その社会づくりを推進する。

町県内で、男女共同参画が未策定の自治体はあるのか。

答 本町だけが策定していない。

町早い自治体は第5次計画まで進み、約20年前から意識改革し、やっと芽が出始めるほど時間がかかる問題である。にもかかわらず、本町は県内唯一計画すらないのは女性蔑視の現れではないか。

職場の格差は、重要な仕事は男性に依頼しがちで、女性と経験値の差が開き、賃金格差、女性の意欲低下の要因となる。

本町で、今まで女性課長や特別職がないのはなぜか。

答 私が知る限り、優秀な女性職員はいた。しかし、ジェンダーの関係で課長になれなかったとは思いたくない。

町昔から一人もいない現実がある。今まではそうでも、今後もそれでいいのか。

県別ジェンダーギャップランキング、長崎は行政45位、市町議会はなんと2年連続47位。しかも本町議会は数少ない女性

ゼロ議会。

女性が入ると、優しくも新しい政治が動き出す。しかし、立候補には高い壁がある。本気で女性後押しを考えるなら、小値賀こそ議会クオータ制（女性枠）が必要である。そこで個人的意見だが、議会クオータ制の導入を目指したいが、町長の見解を問う。

答 今後職員は男女関係なく実力で登用する。クオータ制は良いと思うが、今後議会と協議していく必要がある。



～質問を終えて～

ジェンダーギャップの一番の心配は、やはり子ども達です。本町で育った子どもだけが、女性に間違った接し方をすることがないよう、町民全体での意識することが大切です。

20年前、本町に信号機が設置された理由は、子ども達が都会で信号機に戸惑うことがないようにという優しく温かい理由からでした。ジェンダーギャップへの取組も同じ理由に当てはまると思います。

「大きく叫び、強く訴える住人の声は容易に把握できるが、片隅の小さい声、声なき声は聞き取りにくい。議員はそうした声を把握し、これを代表し、その心で物事を考える事が大切である。」（議員必携より抜粋）

※議員必携とは…議員のバイブルと言われる指南書。

安心安全な教育環境づくりについて

高校存続問題解決に向け、どう対応するのか町長の考えを伺う！

小中高一貫教育・ふるさと留学・高校魅力化を3本柱に推進する



森岡 正雄議員

Q
A

問 以前から、一学年10人を下回ると高校がなくなるかも知れないと言われてきた。現在の小中学生の人数だけを見れば、しばらくは大丈夫のような印象を受けるものの、長期的な視点で見れば、おどかさ

空前絶後の少子高齢化が進む我が国の現状を鑑みれば、子育て支援はやっぱり足りないものであり、長期的な視点で見れば、未来への投資は得こそあれ、決して損であることはない。

今、本町に求められているのは、安心して出産・子育てができる小値賀であり、子育て世代に選ばれる町づくりが喫緊の課題であると考えている。そこで、高校存続に向け更なる教育の充実化と、安心安全な教育環境について伺う。

答 教育行政は、小中高一貫教育、ふるさと留学、高校魅力化を3本柱に推進する旨を、今年3月の議会で教育長が答弁した。安心して、出産・子育てができる環境づくりが、町内出身者の島外流出を防ぐとともに、島外者の移住・定住に結びつき、高校存続にもつながると考えている。

問 今年3月、吉岐の留学生が行方不明となり、懸命の捜査も空しく、変わり果てた姿で発見されるという大変痛ましい出来事があった。吉岐の報道を見て、不安を抱えた町民もいるかと思う。留学生の心のケアや、バックアップ体制は整っているのか。

答 学校との連携、定期的な留学生との面談、実親との緊密な連絡、従事しているスタッフの定例会など、留学生のわずかな変化にも気づくよう細心の注意を払っている。また月に一、二回、スクールソーシャルワーカー（学校生活相談員）や、スクールカウンセラー（学校心理相談員）を迎えて、子どもの心情を理解する勉強会なども開いている。

問 離島留学の需要は非常に高く、宇久、鷹島、黒島も検討していると聞く。このままでは競争に勝てると思えない。思い切ったやり方は

を変え、スポーツや芸術などで留学生を集めてはどうか。

答 4月に改正施行された離島振興法に、離島留学の推進が明記されており、今後競争が激化することが予想される。アイデアとしては良いが、関係各所との十分な協議が必要となり、今後議論していきたい。

問 北松西高の進学率の高さや大企業への就職を武器にして、留学生を集めるのはどうか。

答 その指摘に関しては、すぐにも取り組めると思う。ここ6年の北松西高生の国公立の進学率は27%、また大企業への就職は、大規模校でもトップクラスの成績でなければ入れないと聞く。今後、離島留学生の候補者にも積極的にPRしたい。





高校存続に向け更なる教育の充実化と

更なる教育の充実を目指し、大規模校との連携を図れないか

問 本町の教育は、郷土学習や小さなコミュニティならではの、本町の特色を生かした教育ができており、その点は大変素晴らしいと感じている。

しかし、大きなコミュニティでしか学べないこと、体験できないこともある。

そこで、大規模校と提携し、2泊3日程度の学校生活体験や、文化祭などで数百人を前に発表することは、本町では決して得られない経験ができると思うが、どうか。

答 本町の小中高一貫教育を推進するうえで課題となっているのが、「少人数ゆえに子ども達の関係性が固定化され、多様なコミュニケーション能力を身につけることが難しい環境にある」という点なので、「議員の提案はこの課題を補強する有効な方法だと思う。」

問 社会では語学力のある人材が求められており、進学や就職に大変有利となる。

子ども達の語学力向上のため、海外の学校とオンライン

国際交流を検討してはどうか。
答 実績として令和4年に一度だけ、シンガポールの日本語学校の子どもとの交流があった。子ども達の語学力向上には本町も力を入れている。園児から高校生まで、ALT（外国語指導助手）や町内の外国人の協力を得ながら、語学力向上に努めている。



小値賀こども園での英会話教室の様子。本町の教育に対する取り組みは非常に素晴らしい。

学校敷地内、及び通学路の安全確保について

問 先日、中学校吹奏楽部のコンサートに行った帰りに、体育館横の立入禁止箇所が目止まった。

近くにいた中学生に話を聞くと、天井が落ちてきて危ないので立入禁止になった、とのことであった。

これは旧校舎と体育館をつなぐ廊下であったと思うが、なぜ旧校舎を取り壊す際に一緒に撤去しなかったのか。

答 解体当時、校舎解体跡地に駐車場をつくる計画があり、駐車場から体育館への通路として残した。

学校敷地内に立入禁止の場所があるのは望ましくないもので、できるだけ早く撤去したい。

問 中村から船瀬の通学路で、多数の猪の目撃情報がある。

先日大村では、2歳の子供を含む5人が猪に襲われ緊急搬送された。他県では、一昨年に死亡事故が起きている。

万が一、小値賀の子どもに何か起こってからは取り返しがつかない。街灯を増やすなど早急な対応が必要ではないか。

答 子どもの安全確保のためにも、猪や蛇を引き寄せる原因を取り除き、通学路の維持管理に努めたい。（教育長）

答 猪の出没を完全になくすのは非常に困難であるが、街灯の足りないところは関係者と協議しながら、設置する方向で検討したい。（町長）

～質問を終えて～

今回の質問では、私の教育に対する想いを精いっぱい伝えさせていただきました。どの質問に対しても、町長と教育長からは前向きな答弁をしていただき、その点に関しては非常に満足しています。

しかしながら、政治は結果が全てです。質問するだけで終わりではなく、今後どう変わっていくのかしっかりと見届けたいと思います。

長時間にわたり、傍聴席、第一会議室で観覧していただいた、町民の皆様には心から感謝しております。これからも関心を持っていただけるよう努めたいと思いますので、小値賀町議会をよろしく願います。



集団登校でない時は、小さな子どもが一人で登校している。人気のない場所は非常に危険度が高い。

課題、解決に向けての施策について

人口減少問題解決のため積極的な施策の展開を！

総合計画を基にして持続可能な町づくりを進める



今田 光弘 議員

町長は先の議会で、この先の4年間の町政運営について、安心して暮らせる環境づくりと活力ある町づくりを目指すため、大きく8項目に分けた具体的な施策を行うと所信を表明した。

それらはすべて今までの路線の継承であり重要な施策であるが、本町にとって人口が減り続けているという最大の課題の抜本的な解決には至っていない。

町長が柱と位置づける「町民あつての小値賀町」「町民が主役の小値賀町」の実現のため、

め、そして本町が北松浦郡小値賀町として存続していくためにも、今はもう待ったなしで、メリハリの利いた更なる積極的な施策の展開が必要だ。

誰もが住んでよかったと思える町にしたい

町長が描く小値賀町の姿は、

私の思い描く小値賀町は、子どもたちから高齢者の皆さん、すべての住民が生き生きと暮らし、農業・漁業・商工観光業が活気にあふれ、誰も

が住んでよかったと思う町だ。
また、町の最大の魅力は人情味のある「人」だと思う。

総合計画を基に、持続可能な町づくりを展開する

町長が持つ潜在的な魅力である恵まれた自然環境や歴史文化を大切にされた社会環境の整備を図りながら、住民が自然との共生の中で健康で満ち足りた暮らしをしている。それが町を訪れる人にとって魅力的に映るような町づくりを進めていく。

そのための指標として、総合計画の改定作業を行っている。

地域づくりの実現のためには、教育環境の充実・人口減少対策・後継者対策・医療体制の充実がとても重要だ。

小さな島の大きな絆で小値賀ファンを増やし、雇用を創出することで地域を活性化し、将来にわたり小さくても輝く島として持続可能な町づくりを展開していきたいと考えている。





町長が思い描く小値賀町の姿と重点



黒島から見た笛吹地区を中心とした家並のようす

できることから着実に実行する

問 6月7日現在の本町の人口は2218人。ここ数年社会増の傾向はあるものの、自然減を解消するには至らず、毎年40人くらいずつ減り続けている。

答 このままいけばあと4～5年で2000人を切ってしまう可能性が高い。

本町が北松浦郡小値賀町として存続していくためには、総合計画、過疎計画、辺地計

画に基づいて、というのではなく、メリハリの利いたもつと枠を超えた積極的な施策の展開が必要で、今はもう待ったなしの時期に来ていると思うが。

問 私の町長としての町政運営は、夢を描きながらも現実的な観点を持ちつつ、皆さんと協力連携して着実かつ柔軟に施策を進めていくことも必要で、できることから着実に実行していく。

問 若い移住者を呼び込むために、例えば子育て環境の充実として学校給食の実質無料化や、こども医療費の無償化などもっと積極的な取り組みができないか。

答 今までも支援はしてきている。限られた予算なので、あれもこれもはしたくてもできないのが現状だ。

問 無駄な事業や中止すべき事業もあるように感じる。もう一度、改めて一つずつ事業評価を行ってどうか。

答 常に事業評価は行って予算を立てている。

本町のかじ取りとして取り組んでいく

問 多くの町民、役場職員は、町民が一丸となってこの小さな町を守り続けるために、そのトップである町長のキャパシティと強いリーダーシップを求めている。

答 今後、本町が持続可能な発展を遂げていくため、先人の方々が築いてこられた歴史、文化を継承しながら、各分野における事業展開を踏まえ、検証しながら継続や見直し、新たな取り組みを進めていく中で、私が思い描く町を目指し、本町のかじ取りとしてこれから取り組んでいく。



～質問を終えて～

人口減少対策として本町はいろいろな政策を施し、全国的に見ても決して見劣りのしない、むしろ先進的な取り組みをしてきましたが、それでも人口は減り続けています。

地域コミュニティーを維持するためには、この現実をしっかりとらえて強い危機感を持ち、町も町民も本気で立ち向かっていくことが必要ではないでしょうか。

この先10年間の総合計画も大切ですが、まずは目の前の難局を乗り越えるために、今、がむしゃらに立ち向かっていく姿勢を町長に示してほしいと思って質問しましたが、質問の意図をうまく伝えることができなかつたようで、自分の至らなさを強く反省しています。

野良猫の苦情対策について



野良猫の苦情対策について町長の考えを伺う！

どのような形の助成ができるか県と連携し検討する

Q



橋本 武士 議員

や異様な鳴き声、他の猫への攻撃などの問題行動も予防できる。

最終目的は、「望まれずに生まれてきた不幸な猫たち」迷惑な飼い主のいない猫を「地域猫」として管理し、「今以上に増やさないこと」と、「生命を受けてしまった猫たちは、地域環境の中で、できるだけ快適に長生きできるように」と考える。

いか。担当部署の職員も大変苦慮しており、町民ファーストの行政を推進する上でも決断するべきと考える。

野山に捨てたり、無責任な餌やり、糞尿の処理等近隣住民とのトラブルの原因ともなっている。

しかし、動物愛護法により、動物をみだりに殺したり捨てたり、虐待を行うと懲役や罰金に処せられる。

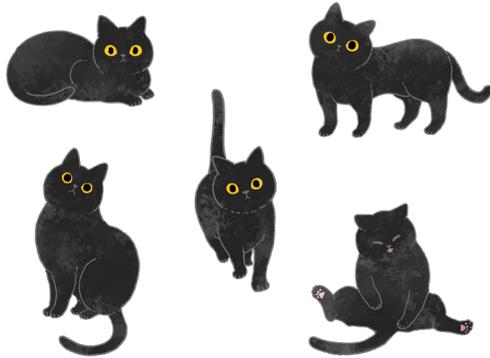
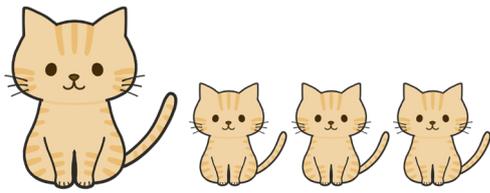
また、長崎県においても本年4月に「動物の愛護及び管理に関する条例」が施行され、飼い主がいない猫への餌やりなどがルール化され、「地域猫活動」についても、野良猫への餌やりやトイレの場所など管理のルールを作ったうえで、管理

ささらにオスの去勢手術は日帰りが可能だが、メスの避妊手術は一泊する必要がある。渡航費用、宿泊費はやむを得ずとも、せめて手術費の実費を町の予算から助成できな

聞飼い主のいない猫の増加による尿などの被害や、餌を与える後始末をしないなど、猫を原因とするトラブルは全国でも問題となっている。 私たちの生活に喜びと癒しを与えてくれる動物たちは、今や家族の一員である。特に猫においては、基幹産業である農業にとっては益であり、必要な存在だ。 人間の都合で不幸な犬や猫を増やさないためにも、生後半年ぐらいで不妊・去勢手術を受けることが重要である。 この手術により、マーキング

すべき野良猫を把握し、不妊去勢手術を行う団体を作り、活動への助言や手術費の助成を行う制度がある。 しかし、現在、小値賀町においては、この地域猫活動に取り組むグループがなく、また町独自の支援や助成の仕組みがない、そのため、まずは地区や有志での組織づくりから始めなければならないと考えている。 その組織への支援策として、不妊、去勢手術費用のほか、最寄りの佐世保市までの旅費や滞在費も含め、どこまで助成できるのか、今後県と連携して対応を検討したいと考えている。





また、飼い猫の飼い方についても、家の中で飼う、不妊去勢手術をするなど管理を徹底し、望まれずに生まれてきた不幸な猫を増やさない努力も必要であると考ええる。

現在、本町においても広報誌等を通じて町民に周知を図っているところだが、引き続き、県や保健所、近隣市町と情報共有し、効果的な取り組みを進めていきたいと考えている。

人と生き物の共生について

岡山においても、殺処分が全国ワースト1位というような状態ではあるが、令和11年には長崎県も殺処分をゼロにする目標が掲げられて、今年度も700匹を対象に避妊・去勢手術の費用を補助するということが決まった。

船に乗って佐世保まで出て、タクシーで病院に向かって、病院に猫を預けて、迎えの時間まで時間を潰し、また術後にタクシーで病院に迎えに行き、タクシーでターミナルに戻り、そして小値賀に帰って来る。これだけでも5万円から6万円掛かる。

ただ冒頭に申したように、何かの縁で一緒に暮らすことになった家族である。

幸せて豊かな人といきものとの共生、迷惑をかけてしまう猫たちをこれ以上増やさないためにも、まずは頭数制限をかけた上で、町独自の支援策が必要ではないか。



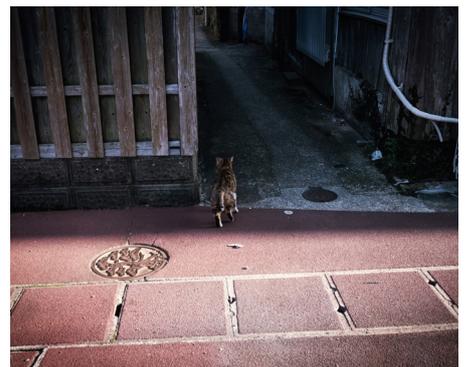
答 自宅で飼われている猫に関しては、ルールを作ってなるべく家庭内で飼っていた方がいいと思う。

また、なかなか島外に行けない、お金もかかるということで、去勢の手術や避妊の手術の助成等も考えられるが、逆に獣医師に小値賀に来てもらう方法も考えられる。

～質問を終えて～

生まれたばかりの子猫を海に流してしまったり、山に捨てるという行為は、動物愛護法違反という犯罪です。内容によりますが、基本5年以下の懲役、500万円以下の罰金、軽くても1年以下の懲役、100万円以下の罰金です。

宝物である子どもたちに、このような犯罪行為を見ることも聞かすこともさせたくはありません。何より、自分より弱い命を守ろうという優しい心根を大切にしてほしい。



小値賀牛とメロンのブランド化について

小値賀特産品のブランド化について町長の考えを伺う！

ブランド化については農協や関係者と前向きに協議する

A Q



議員 小辻 隆治郎

圃現在は、子牛の段階で平戸市場に出荷されているが、畜産農家の中には肥育牛、つまり小値賀牛のブランドとして出荷したいという動きが出ているが、町としてはどのような姿勢で臨むのか。

圃現在、園芸部会でメロン生産者は20名だが、高齢の方も多いため、小値賀メロンの後継者対策が急がれる。

そこで、若い地域おこし協力隊に、本町に1年ないし3年滞在してもらい、農業を実地で経験してもらいながら、移住定住の可能性を考えてもらうのも一つの策ではないか。

圃本町が持続可能な町づくりで成功するためには、町の産業を活かしたブランド作りや、地域おこし協力隊を活用した取り組みに積極的に対処すべきではないか。

答地域おこし協力隊の活用については、一定の成果を上げているため、引き続き継続していきたい。

「持続可能な町づくりのためのブランド作り」については、消費者に対し認定された内容について、客観的に説明できる必要があるため、審査し認定する組織体制の構築が必要だ。

ブランド化は、実現するためにも大変な努力・労力が必要となる。

農協と生産者と、ブランド化のメリット・デメリットを認識しながら、その必要性について協議していきたい。

小値賀町の農業生産高の7割を占める畜産部門は、最近若手の活躍がめざましく、畜舎の新設や、それに伴う頭数の増加など、活発化している。背景には牛価格の上昇に期待感があるわけだが、これを一段と安定的に販売力をつけるためには、小値賀牛のブランド化に前進することが良いと考える。

答町内で繁殖から肥育まで一貫して行い、小値賀産の牛肉として販売できるようにすれば、「おぢか牛」という名称になると思うが、これはまだ「小値賀産の牛肉」という産地名であるので、ブランド牛として扱うには、一定の基準を定める必要がある。

畜産農家の試験的な取組によって、おぢか牛が町内で販売できれば、町の大きな魅力の一つになることは間違いないため、町は畜産農家を支援し、関係機関と協力し畜産業の振興を進めたい。

また、小値賀のメロンは甘くて美味しいと評判で、各農家が自分の顧客に販売するのが手一杯というのが現在の状況だ。



斑沖の定置網問題について

斑沖の定置網問題について町長の考えを伺う！

定置網は重要な事業、早急に取り組みたい

Q
A

問 今年1月の大時化により損傷した斑沖の定置網は、修復不可能という状況だ。

島の周りを海に囲まれた小値賀にとって、定置網で収穫される多種多様な魚類が市場に水揚げされない事態になれば、由々しき状況になると言わざるを得ない。

こういう状態がいつまで続くのか心配だ。

本町としてこの問題をどう考えているのか。

答 斑島地先の大型定置の破損は、漁協にとっては経営の基盤を支える重要な事業という考えから、3月の理事会において、当該自営定置を再操業することが決まっている。

町としても、自営定置は宇久小値賀漁協の経営を支える重要な事業であり、水産物の重要な供給源であると認識している。

しかし事業費が多額となるため、国・県の財政支援が必要

要で、現在関係者間で協議を進めている。

問 小値賀町と漁協を含めた、県、国との協議はどういう状況なのか、どういう経過を踏んで進んでいくのか。

答 国の事業である「水産業成長産業化沿岸地域創出事業（新リース事業）」を活用し、事業申請等の手続きの準備を進めている。

問 定置網の全損について何が問題だったのか、問題があったとすれば解決する対策があるのか。

答 全損の理由は、過去に経験したことがないほどの波浪となったこととの回答があった。

また、急潮（沿岸部での突発的な強い潮の流れ）と重なった可能性がある」と県からの報告もある。

仮に定置網に問題があったとすれば、現在の場所が岩礁

地帯であり、いくつかのアンカーロープが岩で擦り切られている可能性もあるとの回答だった。

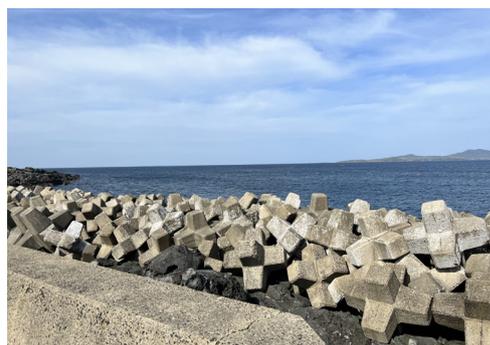
この問題の解決策として、長崎県総合水産試験場からは、場所を海底が砂地である対岸の浜崎鼻地先へ変更することが効果的だと聞いている。

また定置網の形状についても、波浪の影響を受けにくい底層定置への変更について検討するようになっているが、従来の表層定置の方が希望する魚種を収穫できるという意見もあるため、当事者の意向を尊重しながら検討したい。

～質問を終えて～

小値賀牛と小値賀メロンのブランド化は、生産者にとっても、目標として達成したら、大きな自信と誇りにつながることを信じて質問してみました。後継者にとっても、先人のいる間に技術研修をして、小値賀町の地名ブランドをなお一層高めてくれればと願うばかりです。

最近、五島列島がマスコミ等で賑わいを見せております。この機会に小値賀町の挑戦をアピールして、積極的、躍動的な島のイメージを作っていくことが大事ではないかと思ます。





災害に強い農業政策について

全ての台風が本町に上陸するわけではないが、このような未来が予想される中で、本町全体の建物や産業の強靱化

近年、温暖化によって自然災害が激甚化しており、2020年の台風9、10号は町にも甚大な被害をもたらした。気候変動に対する調査研究が世界的に行われ、報告されているが、仮に気温上昇を抑制することができたとしても、台風の発生数に対する強い台風の発生数は2040年までに13%増加すると報告されている。



立石 光助議員

を迅速に進めることが、今後も本町で安心・安全に暮らしていくため最も優先すべきことと考える。町の基幹産業である農業の中でも、特に園芸部門は台風対策が難しい。毎年被害を受けるようになると、離農や町外の転出へと繋がりがねず、新規参入者の確保も困難となるため、大型台風への備えは急務である。

災害に強い農業政策について町長の考えを伺う！

今の時代に合った生活スタイルを確立・推進する

塩害に強い作物を栽培できないか
圃塩トマトや塩たまねぎなど、塩害に強い作物の中から、小値質の土や地理的条件にあった作物を、県の指導員の方や、農協、農家の方々と調査・研究したり、大学や民間と連携し塩害に強い作物を開発したりといった検討が必要と考えるが、どうか。

圃場を風の当たりにくい好適地へ集約するよう、整理できないか
圃防風林の整備が不十分なハウスや、被害を受ける頻度が多いハウスなどから、風の当たりにくい好適地へ移ることも、対策として有効と考える。これまで耕作してきた農地での土づくりや、農地の権利、

現在栽培されている、露地野菜で一番栽培面積の大きいブロッコリーは、比較的耐塩性の高い野菜と聞いている。また、品目の選定は園芸部の皆さんが長い年月をかけて、試行錯誤しながらたどり着いた品目、作型であり、市場からも出荷量の維持を希望されていると伺っている。品目の変更については、試験的な栽培も必要になり、市場との協議も必要となるため、農協・生産者と協議しながら慎重に検討したい。

自宅からのアクセスなど、現在耕作している農地から移ることは容易ではないとは思いますが、今後もハウスでの栽培を続けていくためには、少しでも条件のいい場所へ移動することが、次世代の農家さんに引き継いでいくためには有効な手段ではないかと考える。耕作放棄ハウスの中には、風の当たりにくいところもあるかも知れない。そういった、農業防災上の条件の良い農地への移転を町全体で計画し、支援することもあるかと考えるが、どうか。

比較的风の当たりにくい良好な圃場には、既に耕作者が存在する。
圃場の交換による集約整理については、耕作者同士の同意が必要であり、誰しもが栽培しやすい圃場での栽培を望むので、離農や規模縮小以外での集約整理は難しいのではないかと考えている。

台風襲来時に直掛けする防風ネットの購入補助について

圃作物に直接かぶせることで、防風や塩の影響を軽減する効果が期待できるネットの購入費用を一部助成することで、防災準備に必要となる費用の農家の方々の負担を減らせたいか。

●このネットは、松材線虫病の蔓延により消失した防風林が育つまでの対策として、令和3年度、令和4年度の2年間限定で実施した防風対策支援事業の中で、メニューの一つとして支援している。



半農半X（エックス）の推進

●2021年6月の定例会議で、「四半農工漁X」を提案された。これは、現在教育委員会が進めている地域探求をキーワードにした、町ぐるみの教育行政にもつながるコンセプトだ。

●農業だけに依存せず、複数の収入源や産業を持つ「半農半X」の暮らし方ができれば、農業による被害を受けた場合でも、他の産業での収入を確保することができ、リスクを分散させることができると考える。

●農業と相性がよく、事業を始めるハードルが低い事業のひとつが民泊と農業体験と考える。

●地域探求で高校生から提案された事業を、実際に事業としてスタートさせ、失敗を恐れず挑戦を続ける起業家精神を育成することが、地域探求をもう一つレベルアップさせると考えており、そのためには、農業者や漁業者・商工業者と、高校生を行政がつかないで、地域全体で取り組んでいくこと

で、新しい仕事生まれ「四半農工漁X」が進んでいくのではないかと考えているが、いかがか。

●一つの作物や農業だけに依存しないことで、生活基盤自体を災害に強い状態にすることは大変重要なことだ。また、第一次産業の後継者確保育成対策としても、半農半Xは有効な手段と考えている。

●半農半漁等、昔から本町で営まれてきた生活の形を、今の時代に合うように構築した本町ならではの生活スタイルとして確立し、推進することの必要性を感じているので、関係機関と協議していく。



～質問を終えて～

私は震災や集中豪雨によって甚大な被害を受けた地域で、復旧支援の活動をしてきました。その中で、養鶏施設が全損してしまい、離農せざるを得なくなった方や、広大な田圃全てが土砂の流入で収穫できなくなってしまった方などを間近で見ました。

小値賀で美味しい野菜を作って牛を育てて暮らしている方々が、同じような辛い思いをしてほしくないし、悲しんでいる姿を見たくないの、安心・安全な小値賀を実現するために、今後も防災減災関連の深掘りをしていきます。



町内のいろいろな工事などのようす

～日ごろから議会も現地に出向き、状況の把握に努めています～



請負：(株)友建設
金額：9317万円
工期：令和5年11月完成予定

外壁の塗装、内壁の張替え、トイレのバリアフリー化、照明器具のLED化などを行っています。



大島分校体育館改修工事



請負：(株)細川建設
金額：704万円
工期：令和5年7月完成予定

老朽化した前浜公園横のガードレールの取り替え工事と、浜津前目漁港に車止めを設置します。



浜津漁港機能増進工事



請負：門田建設(株)
金額：330万円
工期：令和5年9月予定

浮桟橋を固定する海中のチェーンが令和4年10月に腐食のため切断。その2本のチェーンを新しくする工事です。



近浦漁港浮桟橋補修工事



請負：(株)友建設
金額：2018万円
工期：令和5年10月完成予定

のり面保護工事とフェンスを設置工事。町道唐見崎線の防護工事はこれで全線完了の予定です。



町道唐見崎線防護工事

本島と納島間の実証実験の成果を受け、本島並みに高速通信ができるよう、本島と大島間をマイクロ無線で結ぶ最新技術の実証実験を6月から行っています。

マイクロ無線実証事業（大島）



大島分校校舎に取り付けた機器



し尿処理場の大島を見通せる電柱に設置



請負：(株)円伸製作所
金額：128万円
工期：令和5年10月完成予定

専門業者の点検で危険とされた、斑児童公園の滑り台の撤去更新と町内遊具の点検整備を行います。他の遊具は利用できます。



児童公園維持管理事業

事業名称	請負業者名	金額	予定工期
し尿処理場汚泥脱水機整備工事	水ing エンジニアリング(株)	550万円	R5年5月(済)
町道野崎本線舗装復旧工事	(株)友建設	2183万円	R5年11月
農地災害復旧工事	(株)細川建設	289万円	R5年10月
町道野崎本線舗装復旧工事	(株)友建設	2183万円	R5年11月
下水処理施設機械設備更新事業	(株)九電工有川営業所	594万円	R5年12月

その他の主な工事

最終処分場の廃材を島外に搬出して焼却処分します。



(予算額：6000万円)

家屋廃材島外搬出業務

老朽化しているトンネルの改修工事を行います。



(予算額：890万円)

空港トンネル改修工事

ギカイの窓より

ギカイの窓に寄せられたご意見やご質問にお答えします!

個人のごみ焼却問題について

圃建設会社と思われる方が、毎日のように簡易焼却炉でいろいろ燃やしています。無塗装の無垢材だけであれば良いのですが、糊や化学物質が含まれている合板やプラスチックなどを燃やしていると思われる。

また、牛の餌用コンポの白いプラを使用後燃やしています。あちらこちらから黒くて臭い煙が出ています。時には地区全体がプラ臭い煙に覆われています。

その他にも、家庭から出たごみを自宅横で燃やしている人がいます。ごみ袋が有料になつてからは、さらに増えている気がします。

これらの問題を解決するにはいろいろな方法があると思いますが、動いていただけないでしょうか。

この島で安全で健康的な暮らしができるように、不法にごみを燃やすことを早くなくして欲しいです。

答 建設業者による簡易焼却炉での焼却、および畜産農家の牛舎近くでのロールのラッピングの焼却については、それぞれ建設業者には建設課より、畜産農家には産業振興課より注意を行っており、折に触れ引き続き注意を促したいということでした。

また、一般家庭の敷地内でのごみの焼却については、投稿を受けすぐに建設課より「野外でごみを燃やさないでください!」というチラシを世帯回覧し注意を呼び掛けています。また、おぢか新聞6月号にも記事を掲載しています。

議会の全員協議会の中でも、「町民も、燃やしていいもの、燃やしたらいけないものの区別がついていない」、「法律的なこともあるので、分かりにくいのだろう」、「罰則のこともちやんと周知しないといけない」などの意見がありました。ごみの分別も含め、今後も引き続き、粘り強く注意喚起していく必要があると思います。

また何かありましたら、ギカイの窓をご活用ください。

野良猫の取り扱いについて

圃県外からの移住者です。来た時から野良猫の雌が住みついており、餌を与えると半年経った頃懐妊し、数匹の仔猫が生まれました。

このままでは猫屋敷になるので、それを防ぐためには、雄猫は去勢手術、雌猫は避妊手術をしなければなりません。

ここは離島、動物病院もなく、有川か佐世保の動物病院に連れて行く方法しかありません。時間、お金(交通費や手術費)の負担は相当のものですよ。

今後どのようにすれば、人と猫が共存共栄できるか考察し、以下を提案します。

①猫を観光資源とするため、動物愛護センターを設け、保護活動拠点、定期的に譲渡会を実施する法人組織を立ち上げる。

②空き家などをリフォームし、島内外からの保護猫と触れ合えるカフェやシェルターを設け交流の場とし、収益を動物達の医療や手術料に充てる。

③ 離島故に、不便を強要されている現状を解消する運動をする。動物病院の開設やフェリーの車両の減額

④ 動物と宿泊できる宿泊施設

⑤ 動物グッズの製造販売

答 野良猫の問題に関しては、町内いたるところでお話をお伺いしますが、担当の役場建設課としても対応に苦慮しているというのが実態です。

地域猫に関しては各地でもいろいろと取り組みが行われておりますが、小値賀町においても担当課に聴取したところ、旅費等を含めた町単独での去勢避妊手術代の補助制度、地域猫に関わる住民団体の創設など検討が必要だとの回答でした。

今回ギカイの窓に寄せられたご提案も参考に、議会としても猫の問題に関しては今後とも検討を続けていかなければと感じており、常任委員会等で協議していきたいと考えております。

また何かありましたら、ギカイの窓をご活用ください。

突撃取材！シリーズ14回

～おしゃれな空間でランチタイムを～

「^コン^ネ ^コン^ネ Lunch & Cafe」の藤田^{こうじ}耕司&愛^{めぐみ}さん

起業や事業拡大などで雇用の場を増やす取り組みをする意欲がある人に、国・県・町が補助金を出す事業も7年目を迎えました。町ににぎわいが戻ってきたような気がします。



歴史民俗資料館の前にあります 営業時間は11:00～17:00

結婚を機に自分のお店を持ちたくて

介護の仕事をして15年くらいしてきただけですが、もともと調理することが大好きだったこともあり、介護の職を辞してからキッチンカーを2年近くしていました。夏になると柿の浜海水浴場に止まっていた黄色いキッチンカーを覚えていた人も多かったのですが、地元の方にも観光客にも愛されるお店に育ってきたようです。

介護の仕事をして15年くらいしてきただけですが、もともと調理することが大好きだったこともあり、介護の職を辞してからキッチンカーを2年近くしていました。夏になると柿の浜海水浴場に止まっていた黄色いキッチンカーを覚えていた人も多かったのですが、地元の方にも観光客にも愛されるお店に育ってきたようです。

結婚を機に自分のお店を持つことにこの補助制度を利用して念願のお店を出したのが令和3年11月18日。

開店してまだ2年足らず

ですが、地元の方にも観光客にも愛されるお店に育ってきたようです。



店内の雰囲気の良さはふたりの人柄からか

五島列島のつながりを大切にしていきたい

お店のウリは、「小値賀産のお米と野菜をつかった手づくり料理」だそうです。魚が入ったときは刺身定食もありですが、普段圧倒的に人気なのはチキン南蛮定食900円。ピザプレートやメンチカツ定食も人気があるそうです。

通常メニューのほか数量限定の日替わりメニューも多数用意され、お昼前から多くの客でにぎわっています。

お弁当やオードブルの注文も多く、毎朝7時頃から仕込みに入っていますが、いっぱい忙しい日が続いているそうです。

五島列島全体のつながりを大切にしながら、小値賀の情報発信をこの店からしていきたいとのこと。コンネのご飯を食べに小値賀に来る人を増やしたいと話す耕司さんの目はキラキラと輝いていました。

総務文教厚生常任委員会から

委員5名のうち新人議員が2名のため、委員会としてまずは今年度の予算と主な事業の内容を把握しようと、5月12日、所管課のレクチャーを受けました。

町内の現場を知ることでも大事であることから、産業建設常任委員会と合同で所管課に同行していただき、15日から26日にかけて、公共施設の現地視察を5回に分けて行いました。

さらに29日には現地視察の総括を行い、あらためて所管課に課題点や今後の計画などについての質疑を行いました。

6月30日には島内の陸上交通計画や旧小西邸の利活用計画等について総務課に説明を求めたほか、先の会議で委員会付託となった議案について検討し、委員会としての意見をとりまとめられています。

また本町の男女間格差解消に向けての取り組み、佐世保航路の運賃・料金が高いこと、通学路の安全確保など、一般質問で出された問題についても委員会として今後集中的に調査を行い、対応を進めていきます。



診療所でヒアリング（合同委員会）



総務文教厚生常任委員会のようにす

産業建設常任委員会から

総務文教厚生常任委員会と合同で、産業建設常任委員会は町内のほとんどの公共施設について現場を視察しました。

今回の選挙で新人4人が当選したため、今後の参考に資するためです。

5月30日に「所管課の現状と課題について」産業建設委員会を開催、担当課の説明を求めました。

産業振興課では畜産・園芸・水産・商工・観光を、建設課では住宅・道路・空き家・水道・各種工事・漁業・環境衛生問題の状況を把握し、問題解決への糸口を委員各自が自覚して取り組めるようにしました。

今回議会で4人の新人の質問者が自分の考えを表明しました。そしてその考え方が、町民の皆さんに評価されて、具体的にそうなれば問題ありませんが、結果そうならなかった場合の処置についての解決点を見出し、行政に対応していくことが大事なのではないかと思えます。

質問してそれで終わりではなく、相応の責任は持つべきなのです。この点については随時、委員会を開催します。



クリーンセンターでヒアリング（合同審査会）



ごみ問題は非常に大きな課題

その疑問にお答えします!

副議長選挙で副議長志願者が1人しかいなかったのに選挙したのはなぜ？

一般的に議長（副議長も同じ、以下略）の選挙は、あらかじめ議員間で話し合いを行って議長を一人指名推薦する（選挙は行わない）方法と、投票による選挙のどちらかとなります。

本町議会では、選挙の経過が町民の皆さんにわかりやすいように、議長志願者の議会運営の姿勢や議会活動の方向性および意気込みなどについて所信を表明する機会を設け（小値賀町議会基本条例第14条）、それを判断材料として選挙を行うよう定めています。

志願者はまず、初寄り（選挙当選後に行われる全員参加の集まり）の場で志願する意思を表示します。

そこでの志願者が一人だけで、その人を議長にすることが予想される場合は、議長を選出する初議会において、議長選挙は指名推薦でいいか仮議長が議員に問います。

そこで異議がなければその志願者が指名され、さらに異議がなければ議長に当選するという流れです。

今回の副議長選挙の過程においては、最初の初寄りの場では副議長の志願者はいませんでした。

志願は初議会当日に出されたため、その志願者を副議長にすることに對する議員全員の意思を確認することはできません。

そのため、志願者の所信表明は行ったものの、指名推薦ではなく投票による選挙となりました。

なお、志願者には所信を表明する機会は設けませんが、志願者以外の（所信を表明していない）議員に投票することも可能です。

以上のような議長選挙の仕組みが町民の皆さんに分かりにくかったことは事実であり、今後、議会運営委員会にて研究を重ね、次回選挙に生かしていきたいと考えています。



議長選挙は「くじ」で決まりました



副議長は江川春朝議員が当選

議長選挙で4人が同数に。議長をくじ引きで決めちゃっていいの？

議長（副議長）選挙については、公職選挙法や標準町村議会会議規則で細部にわたって規定されており、この規定に基づいて行われます。

今回、議長に志願したのは4人で、選挙の結果、4人が2票ずつで並びました。

公職選挙法では、得票数が同じであるときはくじで決める（第95条の2）ことになっているため、今回、4人がくじを引き、当たりくじを引いた議員が議長の当選人となりました。

しかし公職選挙法では、通常の選挙で最下位の当選者が同数の場合には「くじ」で決めることを想定していると思われる、今回のように議長選挙で4人が同数で並んだ場合も同じ扱いでいいのか疑問の余地はあると思います。

今後、このようなケースで本当に議長をくじで決めていいのかが、議会運営委員会として研究をする必要があると感じています。

表紙の写真

「小値賀小学校運動会」

5月28日、お天気にも恵まれ、絶好の運動会日和となりました。

「赤白心を一つに全力でがんばろう!」をスローガンに、1年生から6年生まで、グラウンドを所狭しと元気いっぱい走り回っていました。



(画像の一部を加工しています)

訂正とお詫び

先月配布された、議員だより第126号3ページの小辻隆治郎議員の任期が【一期目】となっておりますが、正しくは【通算4期目】でした。

また、5ページの小辻隆治郎議員の所信表明―行目の【私は小値賀町基本条例に則り】は、【私は小値賀町議会基本条例に則り】の誤りでした。

「ギカイの窓」開いています!



小値賀町議会では、町民の皆さんのいろいろな意見をうかがって議会活動へ反映させようと「ギカイの窓」を開設しています。

議会に対してだけでなく町政に対する質問、意見、要望、相談や提言など、町民の皆さんが議員や議会に直接相談できる場で、まずは電話かメールで、議会事務局にご連絡ください。

相談は原則として、役場3階の議員控室で行います。

相談する議員は指名もできません。指名がなければ、相談内容により事務局で決めます。

相談内容の公開は、原則としてご希望に応じます。

なお、公共の福祉に反すること、個人的な要望、議員や役場職員に対する苦情などには対応できませんのでご了承ください。

電話 0959-56-3111 役場内議会事務局
メール gikaisodan@town.ojika.lg.jp

小値賀町議会
Facebook



小値賀町議会
YouTube



編集 小値賀町議会広報常任委員会
発行責任者 小値賀町議会議長
電話 0959-56-3111

編集後記

6月19日、定例会議を迎えました。新人議員にとっては初の定例会議です。しかも、一般質問は新人4人を含む6人。
新人だけでなく、ベテラン議員、町長を始めとする執行部の方々、そして傍聴の皆さんも、誰もがきつこう思ったはずですよ。

「ホンマに大丈夫かいな。」

そんな中、想像以上に会議はサクサクと進みます。

一日目、二日目は、主に質問だけでしたので、特にトラブルなく(?) 終わったように思います。

ところが、三日目の議案の審議になると、新人にとっては初めてのオンパレードでした。

それぞれが議員必携(議員にとってバイブルと言われる指南書)を熟読して臨んだものの、目まぐるしく変わる状況についていけませんでした。

次回9月の定例会議は長丁場ですので、しっかりと勉強して準備しなくては。

委員長 森岡正雄